



下條正男

しもじょう・まさお 長野 第5期竹島問題研究会の座長
出身。国学院大学院院博士
課程修了。1999年から拓
殖大教授を務め、2021年
3月末で退官した。島根県の
誉教授。74歳。

2001年4月の自民
党の総裁選は、「自民党を
変える。日本を変える」と
訴えた小泉純一郎氏が圧
勝した。小泉氏は「自民党
をぶっ壊す」とも叫んで
いた。

だが今は、その自民党だ
けでなく、日本自体も自壊
の道を行んでいる。昨年末
から続く自民党の裏金問題
と派閥解消劇は、それを象
徴的に示している。本質で

安龍福の足跡をたどれ

もないことを問題とし、国
費と時間を浪費しているよ
うにも見えるからだ。

少し考えれば分かるこ
とだが、派閥や裏金が必
要なのは「政党政治」の宿
命である。派閥の勢力を拡
大する手段の一つが政治
資金。パーティー券だったか
らだ。

■民意は間接的に

以前にも書いたが、日本
国憲法の第68条では、国務
大臣の半数を国会議員から
選ぶとしている。しかし、
現実には国務大臣のほとん
どは国会議員で、副大臣や
政務官までもが国会議員で
占められている。それに国
務大臣を任命する内閣総理
大臣は自民党総裁という事
実がある。

地方自治体の首長と違っ
て、トップは国民が直接選
んだリーダーではない。こ
れではせっかく国会議員を
選んでも、民意は間接的な

ものとなってしまふ。組閣
の際は派閥の力学に左右さ
れ、当該大臣の専門性など
問わないからだ。

国会中継などでは、満足
に答弁もできない大臣の醜
態を見せつけられている。
仕える官僚も大変だろう。
そこに副大臣や政務官が加
われば、お役人たちの負担
も尋常ではないはずだ。

かつて小泉氏が「ぶっ壊
す」と大言壮語した自民党

日韓の相互理解



安龍福をたたえる忠魂碑を
指さす筆者—2006年11月、
韓国・鬱陵島

は今、「解体的出直し」が
論じられている。だが派閥
を解消し、政治資金規正法
を定めたらといって、当事
者能力に問題のある人士が
国政を壟断する弊害は解消
しない。古い皮袋に新しい
酒は入れられない。

■「改革」に入らず

05年3月、島根県議会に
よる「竹島の日」条例制定
は「自民党を変える。日本
を変える」試みから出発し
た。それが「聖域なき構造

改革」を目指す小泉政権に
は「抵抗勢力」と映り、外
相や外務省高官から「実効
的には何の意味もないこと
を県民感情だけで決める」
と揶揄、牽制された。

だが、その「日本を変え
る」シグナルは、韓国の盧
武絃政権には確実に伝わっ
ていた。韓国政府は「竹島
の日」条例成立の1週間前
に、竹島問題に対処するた
めの法案を成立し、4月に

として初めて李明博氏が竹
島に上陸したことで、一挙
に日本の反韓感情が高まっ
た。この一連の動きを見る
と、島根県議会の「竹島の
日」条例は「実効的には何
の意味もないこと」ではな
かったのである。

昨今の北東アジア情勢は
日韓双方にとって危惧すべ
き状況にある。今は日韓の
齟齬の原因である竹島問題
を克服すべき時である。そ
れは実態を知らないまま、
ともに民族感情に走ってし
まう歴史認識の出発点でも
あるからだ。

は活動を始めていた。

小泉政権は「改革なくし
て成長なし」と豪語してい
たが、竹島問題はその中に
入っていなかった。

それが11年、第5回「竹
島の日」記念式典後のシン
ポジウムで、国会議員がツ
イッター(現X)をしていた
ことを注意したのをきっか
けに、その年の夏、国会議
員3人による鬱陵島視察案
が浮上すると、韓国側に変
化が起きた。

翌年8月、韓国の大統領

一朝一夕には解消できな
いが、幸い島根県立大の姉
妹校には、竹島問題と関係
の深い安龍福研究所のある
大邱韓医科大学がある。ま
ずは研究所との交流を優先
し、江戸時代に2度、日本
を訪れた安龍福の足跡をた
どるだけでも相互理解には
役立つはずだ。

蠢動する中朝口を考えた
時、日韓の相互理解と「竹
島問題」は、その対抗策と
しても使えるのである。